19 唐子象乗　三代原舟月　一点

明治期（十九世紀）
木彫、牙彫
一七・五×一二・〇×一六・七

中国では人が象に乗る「騎象」は、「吉祥」と音が通じていることから、吉祥図として表されており、また多くの物を運ぶ事ができることから、人とともに如意や万年青など様々な宝物や吉祥を示す品ものを乗せて描かれた。本作は、チャルメラを構えた唐子が、宝珠や垂飾によって飾り立てられた象の背に乗る姿を表した品である。唐子の頭や手足は牙彫、象と唐子の身体の部分は桑材を彫りだして形作り、装束の文様などは緻密な蒔絵で描かれている。象の腹に嵌め込まれた牙板に「原舟月作 朱印」と刻まれており、江戸時代末から江戸で人形師として活躍した三代原舟月（一八二六～九九）の作であることが示されている。代々舟月は山車人形の名工として知られ、雛人形や根付などの制作にも携わった。三代舟月は、明治五年頃から唐木を用いた輸出向けの置物の彫刻を手がけており、本作もそうした明治初期の作品のひとつである。目の部分にガラスによる玉眼を嵌めるなど、人形師ならではの細工が施されている。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やござれ —寿ぎの美・新春に集う
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十九年一月六日発行

© 2007, The Museum of the Imperial Collections